



豊橋市の水道事業における IoT利活用の取組



令和2年10月28日



事業内容

IoT活用推進モデル事業（生活基盤施設耐震化等交付金に採択）

○事業期間：令和元年度～3年度

○設置数：一般住宅 約410戸

（令和2年7月末 現在 75戸設置）

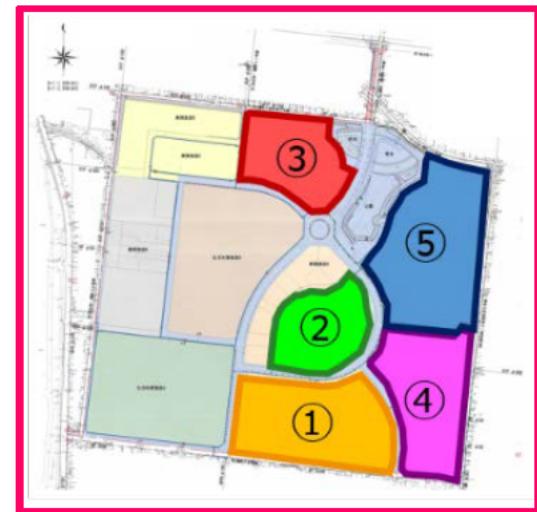
○通信方式：電力スマートメーターネットワーク

○水道、電気、ガスの共同検針

令和元年10月より開始

○「水道見える化サービス」

令和2年2月より開始



番号	名称	整備年度 (予定)	個数
①	フロントステージ	R1年度～	102個
②	キャナルパーク	R1年度～	39個
③	サクラテラス	R2年度～	59個
④	グランコート	R2年度～	84個
⑤	ネクサスタウン	R3年度～	124個

設置状況

2時間ごと
指針値を計測

水道メーター



樹脂製の
メーターボックス



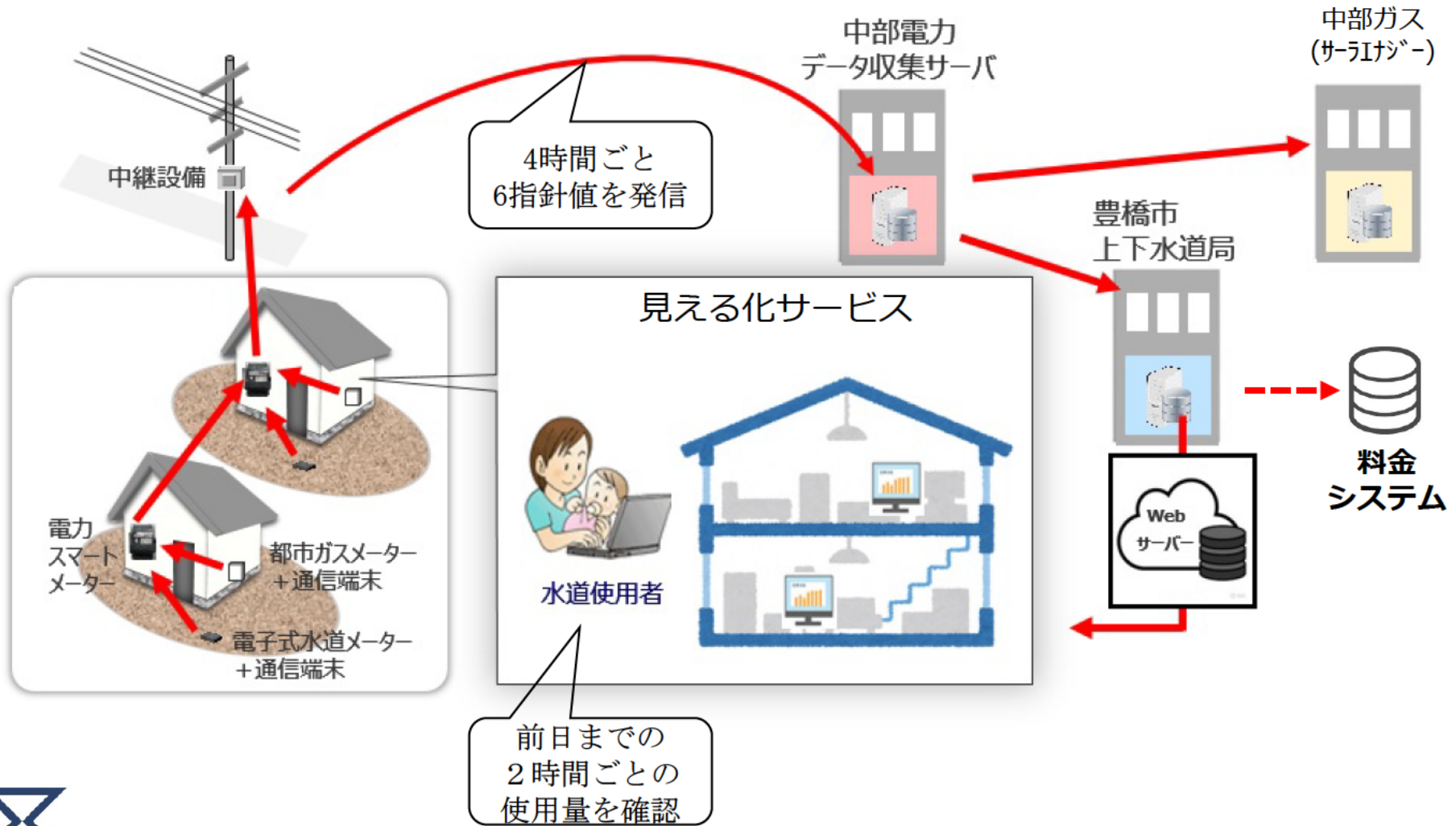
ガスメーター



電力メーター

4時間ごと
6指針値を発信

通信方法の仕組み



利用者の声

- 訪問が無い無線機を用いた自動検針について好感を持たれている
- 誤検針など自動検針の信頼性については不安がある
- 「見える化サービス」は便利なサービスなので続けてほしい

普及に向けた課題

① コストダウン

- イニシャルコスト（電子メーター、通信端末）
- ランニングコスト（通信費、データ取得費）

② 水道メーター特有の仕様

- 防水、防塵の確保
- コスト（防水防塵性能）



水道メーターと通信端末
接続部の防水・防塵を確保